

新天地に移ってこの頃思うこと

小林 隆児

(東海大学健康科学部社会福祉学科)

福岡では異常渇水の再来で皆様大変なご様子。心よりお見舞い申し上げます。こちらは幸い水の心配は全くなく、水も冷たくて福岡の水より美味しいほどで、なんだか申し訳ないような心境です。

九州を離れて早半年が過ぎ、やっとこちらの生活リズムにも慣れてきました。朝の出勤ラッシュも小田急線下り（東海大学健康科学部は医学部と同じ伊勢原市にあり、新宿から急行で1時間もかかる田舎町です）のため、比較的楽で、ほとんど座って通勤できるほどです。しかし、時々東京で仕事がある時は大変です。いくら早起きして乗ってもいつも満員の状態です。ただ人間の順応性は高いものだとつくづく感じます。いつのまにかそれが当然となってしまう、乗物に乗るコツを覚えてリズムを合わせられるようになると、随分便利なものだと思うようになりました。

4月から私は東海大学病院精神科の児童外来を週1日（月曜日）担当し、子どもの臨床

の機会を持っています。まだまだ患者数は少なく、ゆっくりと時間をかけてゆとりのある診療をしています。ただネットワークを持っていませんので、紹介患者も少なくのんびりしたものです。神奈川県の人々の診療圏は都内をも含み広域にわたっているのでしょうか、受診患者数も予想していたほど多くはない印象です。周辺に名高い病院がいくつもありますので、患者さんも多くの選択枝のなかからどこに行ったらいいのやら随分と迷うことだろうと想像されます。

私の所属する健康科学部は平成7年4月開設を目指し、目下最後の準備に追われています。伊勢原校舎にある救命救急センターの真ん前に7階建ての新しい校舎が現在建設中です。準備段階から関与していたおかげで、研究棟のなかに子どもの遊戯療法室や運動療法室を作り、高額のビデオモニターも設置することができました。

現在取り組んでいる研究テーマのひとつは

「自閉症の早期治療」で、厚生省精神・神経疾患委託研究費をもらいながら取り組んでいます。2歳前後の乳幼児と母親との母子関係に焦点を当てて、母子関係の変容過程を捉えていることに力を注いでいます。このテーマが生まれたのは、これまで私が行ってきた自閉症の発達精神病理研究の必然的な成り行きのような気がします。自閉症の治療を突き詰めていくと、どうしても早期治療を手掛けないと将来の展望が開けないと考えるようになってきました。

今まで自分で取り組んできた自閉症研究にひとつの区切りをつける意味で、これまで自分で学術誌に発表してきた諸論文をまとめて『自閉症の発達精神病理と治療』というタイトルの著書を発刊しようと計画中です。おそらく来年の夏頃には日の目を見ることができるとは思わないかと期待しています。

親から離れて初めてその有り難みが分かるといいますが、私も医局を遠く離れて初めて

自分の今までの体験を相対化することができたような気がします。今までもよく耳にしていたことですが、力動精神医学的考え方がこちらではあまり浸透しておらず、精神療法の報告例を聞いても感心するようなものにはあまり遭遇しません。あらためて自分の今まで学んだ環境の素晴らしさに感謝する今日この頃です。上京の折には東海大学の新しい学部にもぜひ足を運んでいただけたらと願っています。皆様もお元気でお過ごし下さい。